

# ポルトガル月報

2020年8月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

## 【主要ニュース】

【内政】★地域別宣言及び措置の期限延長／★スマートフォン向け感染接触アプリの配信が開始

【外交】★カプリタ内務大臣、モロッコ内務大臣とビデオ会談

【経済】★厳しい数値を記録するも、各部門で改善の兆しを示す

## 内政

### ★地域別宣言及び措置の期限延長

8月27日、政府は閣議において、31日まで発動されていた、新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じた、市民保護法に基づく現行の地域毎の宣言を9月14日23時59分まで延長する旨決定した(同宣言はこれまでに2回延長されている)。なお、ヴィエイラ・ダ・シルヴァ閣議大臣は記者会見において、9月中旬には新学期を迎えること及びこれまでテレワーク体制下にあった勤務者の多くが通常勤務体制に戻る見込みであることを踏まえ、9月15日以降、既に「緊急事態宣言」下にあるリスボン首都圏に加え、「警戒事態宣言」下にあるその他のポルトガル全土の深刻度レベルも一つ引き上げ、ポルトガル全土が「緊急事態宣言」下に置かれる旨発表した。また、これまで中断していた政府および保健当局関係者を一堂に集めた会議を9月7日に再開し、9月15日以降の新規措置について検討する旨発表した。

### ●インテルカンパス社の世論調査結果—8月

8月17日、ジョルナル・デ・ネゴシオス紙は、インテルカンパス社が実施した世論調査結果を発表した。新型コロナウイルス感染症への対応が続く中、与党・社会党(P S)の支持率は39.6%(前月比0.6ポイント増)に増加した。政府に協力的な姿勢を示している最大野党・社会民主党(P S D)の支持率は24.8%(同

0.9ポイント増)と先月から増加した。P SとP S Dの支持率の差は14.8ポイント(前月比0.3ポイント減)に減少した。その他主要政党では、シェーガ党(C H)と人と動物と自然の党(P A N)の支持率が増加した。同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

### 【ポルトガル国内政党支持率推移】

政党	3月	4月	5月	6月	7月	8月
PS	31.4	35.4	40.3	40.0	39.0	39.6
PSD	21.9	23.3	23.3	24.1	23.9	24.8
BE	14.5	11.9	9.0	9.8	10.4	8.5
CH	8.6	7.8	6.8	6.8	6.2	7.9
CDU	6.1	5.8	5.9	6.2	6.2	6.1
CDS	3.6	3.9	3.6	4.1	4.8	4.4
PAN	5.9	4.9	3.6	3.1	3.0	3.2
IL	2.3	2.4	3.2	1.9	2.8	2.8
Livre	0.2	0.7	0.7	0.8	0.4	0.4

■調査期間：8月6～11日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者601人、調査方式：固定及び携帯電話番号を無作為に抽出、統計上の誤差：4%

■P S=社会党、P S D=社会民主党、BE=左翼連合、C H=シェーガ党、C D U=統一民主連合(ポルトガル共産党(P C P)・緑の党(P E V)、C D S=民衆党、P A N=人と動物と自然の党、I L=リベラル主導党、L i v r e=自由党

## ●サッカー欧州チャンピオンズリーグの決勝トーナメントがリスボンで再開

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月から中断されていたサッカー欧州チャンピオンズリーグが無観客で再開された。決勝はトルコのイスタンブールで開催される予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、8月12日から行われる準々決勝以降はリスボンへと会場が変更されていた。コスタ首相は会場の変更に当たり、保健省を中心とした関係各機関のたゆまぬ努力によってもたらされた衛生・安全基準がポルトガルでの決勝トーナメント開催を決定づけた旨述べた。なお、8月23日の決勝ではドイツのバイエルン・ミュンヘンがフランスのパリ・サンジェルマンを1対0で下し優勝した。

## ●アソーレス自治州議会選挙日の決定

8月21日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、アソーレス自治州議会選挙に関する新法案に署名し、アソーレス自治州議会選挙を10月25日に行う旨発表した。法案には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、大統領選挙、共和国議会選挙、欧州議会議員選挙のみに許可されていた期日前投票を本選挙でも許可する内容が盛り込まれた。

## ●レベロ・デ・ソウザ大統領自由主義革命記念200年記念のメッセージ

8月24日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、1820年同日にポルトで始まった、憲法制定や市民の権利をもたらした自由主義革命の200周年を記念し、「個人と政治の自由、また、経済・社会・文化的権利の獲得を目指した長い歩みにおいて、また、ポルトガルにとって歴史的な出来事である」旨のコミュニケを発表した。

## ●感染接触確認アプリの配信が開始

8月28日、スマートフォン向け新型コロナウイルス感染接触確認アプリ「STAYAWAY COVID」の配信が開始された。本アプリはAndroid、iOSの両OSに対応している。本アプリは、新型コロナウ

イルス感染者と過去2週間以内に、15分以上半径2メートル未満の空間にいた人に対し、濃厚接触の通知を行う。本アプリは、7月の情報保護能力確認のための試験により、安全性が認められていたものの、配信携帯会社によるアプリ仕様の確認が長引き、配信に時間がかかっていた。なお、政府は本アプリのダウンロードを強制しないとしながらも、感染拡大防止のため、より多くの人にダウンロードしてもらいたいとしている。

## 外交

### ●第4回アフガニスタン派遣部隊が帰国

8月5日、第4回アフガニスタン派遣部隊145名が帰国した。今回帰国した部隊はアフガニスタンのアミド・カルザイ国際空港の警備を担当した。第4回派遣部隊指揮官のゴメス・ファゼンダ少佐は、「今回の任務は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、重要性が増したものであった」と振り返り、「アフガニスタン国内の問題に加え、3か月間の任期延長を強いたウイルスという見えない脅威との戦いでもあった」と述べた。今回部隊は、緊急展開旅団、全般支援部隊、特殊作戦諮問部隊、NATO本部からの出向者によって構成された。なお、本派遣部隊の代わりに、7月21日と8月4日に第5回派遣部隊がアフガニスタンに派遣されている。第5回派遣部隊の任期は2021年2月までの予定。

### ●カブリタ内務大臣、モロッコのラフィット内務大臣とビデオ会談

8月5日、エドアルド・カブリッタ内務大臣は、モロッコのアブデロアフィ・ラフィット内務大臣とビデオ会談を行った。両大臣は、両国の市民保護に関して話し合い、ポルトガル共和国国家警備隊とモロッコ王立国家憲兵との協力を含めた、緊急時における両国間での協力姿勢を確認した。また、両大臣はモロッコからアルガルベへの不法移民について、両国間で移民管理を強化する旨確認し、ポルトガル・モロッコ間での早期移民協定締結の重要性を共有した。最後に、両大臣は新型コロナウイルス感染症に関する経験を共有し、

両国間での航空路線の将来的な再開を約束した。また、カブリタ大臣は状況が落ち着いた際にラフィット大臣をポルトガルへ招きたい旨表明した。

### ●レベロ・デ・ソウザ大統領ベイルート爆発事故に対するお見舞いの言葉を表明

8月5日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、レバノンの首都ベイルートで発生した大規模爆発に関し、レバノンのミシェル・アウン大統領に対し、お見舞いのメッセージを表明した。メッセージでは、「全レバノン国民と同様、亡くなられた方々を悔やむと共に、被害にあわれた方々の一刻も早い回復を願う」旨述べた。

### ●ポルトガルがカーボベルデ、サントメ・プリンシペへの貸付返済の猶予を決定

8月5日、ポルトガル政府は、カーボベルデ、サントメ・プリンシペに行っていた直接融資に関し、両国からの要求に応じ、融資返済を2020年12月まで猶予する旨決定した。新たな融資条件の設定についても協議される予定。本救済措置は、債権債務国間協議（パリクラブ）とG20が提案する債務返済猶予イニシアティブによって、新型コロナウイルス感染症拡大により被害を受けた途上国の経済、社会、保健衛生に対する影響の軽減を目的とする弾力的措置である。

## 経済

### ●農業輸出に回復の兆し

8月8日、国立統計院（INE）は6月の農業輸出に関する指標を発表し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、農業分野に関する数値が回復傾向にある旨発表した。2020年6月の輸出は5億5,200万ユーロの輸出となり、前年同月と比較し、5.2%の上昇となった。また2020年度上半期の数値も同様に、前年同期数値32億7100万ユーロから32億8500万ユーロへと0.4%の増加を示した。園芸・花卉植物が39.7%、ワイン・葡萄酒が16%、柑橘類・メロンが6.2%、乳製品・卵・蜂蜜が4.4%それぞれ増加した。上半期の輸入

は前年同期51億100万ユーロから48億7,000万ユーロへと4.5%の減少となった。

### ●ポルトガル復興銀行設立の承認

8月13日、閣議でポルトガル復興銀行の設立が承認された。同銀行は、2021年から効力を発する経済社会復興プログラムの枠組みにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大により被害を被った中小・零細企業支援のための必要不可欠及び重要な役割が期待されている。レアン財務大臣は、同復興銀行が中小企業支援の一助となり、今後これら企業の事業が拡大することを期待する旨述べた。

### ●航空統計数値を発表

8月17日、国立統計院（INE）は6月航空旅客・貨物取扱及び上半期航空旅客・貨物取扱に関する数値を発表した。6月の国内への貨物機含む商業用航空機着陸回数は、前年比-86.0%となる3,000回へと減少した。旅客数は前年比-94.6%となる31万8,200人（出発、到着、乗り換えを含む）を記録し、貨物取扱量は前年比-54.1%となる7,500トンの取扱量となった。また、上半期国内空港利用者数は前年比-64.5%となる990万人となった。全利用客の内57%が利用するリスボン空港では、前年比-61.3%の数値を記録し、国内ではファロ空港の利用が前年比-79.9%と最大の減少となった。

### ●上半期対外収支を発表

8月19日、ポルトガル中央銀行は2020年上半期の対外収支（経常収支と資本収支の合計）が、19億8,500万ユーロに達した旨発表した。前年度と比較し、3億2,300万ユーロ減となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により輸出が16.5%落ち込みを記録したものの、輸入も17.3%落ち込んだため、財政収支赤字は前年度同期金額に対して、16億2,300万ユーロの減少で止まった。

### ●短期国債の入札

8月19日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、6か月物短期国債を3億ユーロ（平均利回りは-0.501%）及び1年物短期国債を9億5,000万ユーロ（平均利回り-0.473%）発行した。落札額は、6か月短期国債が11億7,800万ユーロ（応札倍率3.93倍）、1年短期国債が19億4,800万ユーロ（応札倍率2.05倍）となった。

### ●長期国債の入札

8月26日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、7年物長期国債を4億5,000万ユーロ（利回りは0.095%）及び10年物長期国債を8億ユーロ（利回り0.336%）発行した。落札額は、6年物長期国債が11億6,900万ユーロ（応札倍率2.60倍）、10年物長期国債が16億1,300万ユーロ（応札倍率2.02倍）となった。

### ●2020年上半期国家保健サービス（SNS）投資額を発表

8月28日、マデ이라保健担当筆頭副大臣は、国家保健サービス（SNS）に対する2020年度上半期投資額が、前年同期に対し3億6,100万ユーロ増加した旨発表した。増額した投資は、人件費に1億6,510万ユーロ、医薬品に4,800万ユーロ、医療消耗品に4,700万ユーロ、薬局向け製品に5,240万ユーロ分配された。本投資により、新型コロナウイルス感染症拡大抑制のための対応力、柔軟性、人的資源、設備向上が見込まれる。

### ●第2四半期GDP成長率が前年比-16.3%を記録

8月31日、国立統計院（INE）は2020年第2四半期のGDP成長率を発表し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、同年第1四半期GDP成長率（-3.8%）に対し-13.9%の落ち込みを記録したと発表した。また、2019年同時期との比較では-16.3%となった。貿易部門では、人の往来

の制限及び減少により、輸出成長率が-39.5%、輸入成長率が-29.9%の数値を記録した。

### ●内需回復の見通しを発表

8月31日、ポルトガル中央銀行は金融カード利用の数値をもとに内需回復の見通しを発表した。外国人のカード利用による購入金額は前年比59.9%の減少に対して、国内居住者のカード利用金額は0.7%増加した。カード利用の内訳として、小売、バイク及び自動車、健康関連サービス、輸送サービスでプラス成長を示した一方で、宿泊やケータリングなどの支払いでは感染症拡大の影響を受け、マイナス成長を記録した。

### ●宿泊部門統計数値の発表

8月31日、国立統計院（INE）は宿泊部門における7月数値を発表した。7月は約100万人が宿泊類似施設に滞在し、約260万人が宿泊施設に滞在した。6月の前年度比増減率が、宿泊類似施設滞在者-82.0%、宿泊施設滞在者-85.2%であったのに対し、7月の前年度比増減率はそれぞれ-64.0%、-68.2%の数値となった。また、国内居住者による前年度比宿泊増減率は-31.3%（同6月-59.7%）、国内非居住者による前年度比宿泊増加率は-84.2%（同6月-96.2%）を記録し、宿泊客数が回復傾向にあることを示した。

### ●7月の雇用統計数値の発表

8月31日、国立統計院（INE）は6月の確定雇用統計と7月の推定雇用統計を公表した。6月確定値では、被雇用者数が前月比0.3%増加したものの、失業率は前月比1.4%増の7.3%となった。7月推計値では、被雇用者数が前月比0.1%増、失業率が0.8%増の8.1%となった。

（了）